

東公民館

さつまいも作り

北伊予小学校教諭

岡田 禮子

北伊予小学校の西門を出たところにある、公民館が借りている休耕田で、一年生は、さつまいも作りを行った。

6月には、地域のお年寄りといっしょにさつまいもの苗を植えた。梅雨に入っており、前日も雨が降ったため、みんなはだしで畑に入った。さつ

まいもを植えるのは初めてという児童が多く、はだしでというのはほとんど経験がない。みんな並んでいくときから、

ワンワイキヤーキヤーと賑やかだった。あいさつの後、早速植え方を教わりながらお年寄りといっしょに植えた。マルチの穴へ一つずついねいに、一生懸命植えていった。

途中で、大きくできることを願いながら、何回か水やりや草引きも行った。

少し寒さも加わった11月5日(火)、地域のお年寄りといっしょにさつまいも掘りを行った。みんなとても楽しみにしていたので、つるのをのけてく

▼大きなさつまいもを手にもニコリ



自分で引つ張ってみる子もいた。根元の下から次々顔を出すさつまいも。どの子も目を輝かせ、一生懸命掘っている。大きな芋に悪戦苦闘。大きさが、形、数にみんなびっくりしながら「これ見て、これ見て。」と大はしゃぎだった。持つてきたスーパリーの袋もいっぱいになり大満足。でもこれがまた、持つて帰るのに一苦労。感想を発表し合い、お礼を言って教室に帰った。家のおみやげに2、3個ずつ持つて帰って、早速ふかしたいもや、天ぷらにしてみようと思った。

残り。これをどうしようかとみんなで相談しているところである。焼き芋にしようか。それともスイートポテトかな。誰かにプレゼントかな。自然体験が少なくなっている昨今、土の中に埋めた一本のつるから、根が生え茎が伸び葉が増え、大きないもができるというすばらしい不思議さを実感できるよい機会だった。また、水口館長さんをはじめ地域のお年寄りといっしょに教えていただいたりお話ししたりしながら活動ができたこと、目に見えないところで準備や世話をしてくださったこと、本当に感謝している。



◀たくさんできたかな？

保育シリーズ

心と心がつながるとき

若葉保育所保育士

本田 章子

若葉保育所でお世話になって2年目を迎え、2歳児の担任をしています。

誰にでも人懐っこいA君、家庭では、好きな玩具を欲しいままに買ってもらえる環境です。興味のある物を見つけたら、「これAのよ。Aが使うんよ。」と、取り合い、トランプルとなり泣き出してしまいます。そして、一度泣き始めると、なかなか止まりません。

ころあいをみて抱き締め話しかけます。しかし、一つの事に夢中になると、驚くほどの集中力で納得するまでし続けるA君。

ある日、「オーイー！みんな、ダンゴ虫がおるよ。」の声に、それぞれの場所で遊んでいた子どもたちが、全員A君の所に集まり、「どこにおるん？」「アッ！おった、おった。」「ここにもおった。」「へびがおったよ。アレツ、ミミズじゃった。」などの会話が広がり、牛乳パックの中には、ダンゴ虫やミミズ、葉っぱの餌で一杯になりました。

何日かたったある日、登所

して来たB君がA君を捜して、「A君、これはね、お家の庭におったんよ。」その後もダンゴ虫捜しは続いています。室内外でも遊びがいろいろ増え、周りの友達に対して自ら関わりを持つていこうとする姿が見られるようになってきました。

また、大好きな散歩に出かけ、自然の不思議さに出会ったり、新しい発見をして感動したり…。近所の方々に声をかけられて挨拶し合うことで、親しくなっていきました。これからも心と心がつながる日々を大切にしながら、一人ひとりの成長を見守っていききたいと思います。



▲日々、成長していく子どもたち